

## 司祭按手式

あまねく教会の祈祷と立証を求めるため、教区内各教会および各教区にあらかじめ公告した日に、早祷が終わってから、主教指名の聖職が司祭の職分のこと、その職位の公会に必要なこと、信徒はこれを尊敬すべきことを示す説教をする。説教が終わって主教は祭壇に近い座につく。一人の司祭は正服を着けた志願者を伴い次のように推薦する。

師父よ、この人々を司祭（プレスブテロ）の職に任ぜんことを願う

主教は言う。

今なんじが推薦する人々は品行正しく学問あり、その職責を尽くして神の栄光をあらわし、聖公会の徳を建つるに適当なりや

司祭は答える。

すでにこのひとびとのことを調査し、また試験してかくのごとき者なりと思う

次に主教は会衆に言う。

兄弟よ、今日この人々を司祭の職位に任ぜんとす。我らはすでに彼らを試験して、正しくこの職に召され、またその職務を行のうに適當なる者と思う。しかれども、もしこの人々に著しき罪、またはこの職位に任ぜらるるに故障あることを知る者あらば、いま神の御名によりて申し立つべし

もし著しい罪、または故障があると申し立てる者があれば、その按手を中止して事の明白になるまで待たなければならぬ。

主教は言う。

我ら司祭の職に任ずるに適當と認められたるこの人々のために祈るべし

主教 願わくは今、司祭の職に任ぜらるるこのしもべらを祝し、主の恵みを彼らに注ぎ、その務めを  
会衆 会の徳を建て、御名の栄光をあらわさせたまわんことを  
主よ、ききたまえ

次に聖餐式を行ない、左の特祷・使徒書・福音書を用いる。

## 特禱

もろもろの良き物を与えたもう全能の神よ、主は聖霊をもって公会のうちに聖職を立て、その位を分かちたまえり。いま司祭の職に召されたるこのしもべらを見そなわしたまわんことをこいねがい奉る。願わくは主の道の真理をもって彼らを満たし、清き生涯をもって彼らを装い、忠実に主に仕え、その教えと行ないをもって御名の栄光をあらわし、聖公会の徳を建つることを得させたまえ。父と聖霊とともに世々統べ治めたもう救い主イエス・キリストのいさおによりてこいねがい奉る。アーメン

## 使徒書 エペ四章七一―一三

### 福音書 マタ 九章三六―三八

またはヨハ一〇章一一―一六

ここで会衆は座につき、主教は座して言う。

兄弟よ、なんじらか召されたる職位のいと尊く、いと重きことを試験の時にも学び、今また説教にても福音書・使徒書のうちにも来聞けり。我らも主イエス・キリストの名によりて重ねてなんじらに勧めむ。なんじらこの位のいかに尊く、この職のいかに重きかを思うべし。なんじらは主の使い・主の斥候・主の家づかさとなりて、主の家族を教え、これを戒め、これを養い、これを守り、また散りたるキリストの羊を集め、この悪しき世にある主の子供らを尋ね、キリストの限りなき救いに導くことを努むべき者なり。ゆえに、なんじら心にして常に忘るることなかれ。なんじらが預かる宝はまことに大いなり。これキリストの羊にして尊き血をもって買ったまいしものなり。なんじらが仕うべき教会は主の花嫁・主のからだなり。もしその教会あるいはその信徒が、なんじらの怠りによりて害をうけ、またはつまづくことあらば、その罪のいかに大いにして、その罰のいかに恐るべきかを悟るべし。ゆえに神の子供ら、キリストの花嫁・キリストのからだに對するなんじらの職務をよく考え、苦勞をいとわず、力を尽くして、なんじらの預かる会衆を導き、彼ら相ともにますます神を信じ、神を知り、ついにキリストにありて全き者となり、誤れる信仰・よこしまの行ないを入るべき余地なきに至らしむるよう努むべし。なんじらの職務はかくのごとく尊くして容易ならざるものなれば、深く心をくばり、思いを巡らしてこれに当たり、なんじらをこの尊き職位に召したまいし主に忠義を尽くし、自らつまずかず、また他人をつまずかせざるよう慎むべし、しかれどもこれを願う志とこれをなす力とはおのれよりのものにあらず、ただ神の賜物なれば、ひたすら聖霊を求めざるべからず。また人々の救いにかかわるこの重き職務は、聖書の教えとこれにかのう行ないとによらずして尽くすことあたわざれば、ねんごろに聖書を学び、努めたおのれと家族との行ないをその戒めになわさせ、また力の及ぶ限り、この世の思いわずらいを捨てし。思うになんじらすでに自らこれらのことをよくはかり、力を尽くしてその身をこの職にゆだね、一心にこれに従事することを神の恵みによりて決心したるならん。またなんじら、これがために、必らず救い主イエス・キリストのより

なしによりて常に父なる神に祈り、聖霊の助けを求め、また日々聖書を読み、これを味わい、これによりてますますその職に熟達し、絶えずなんじらと家族との行ないを清めて、キリストの教えにかのう良き模範となることを努むるならん  
我いま神とその公会の名をもつて、なんじらに問わん。これ、この会衆なんじらの誓約を聞きてなんじらの心を知り、またなんじらも一層その務めを励まんためなり

主教 なんじらこの職に召さるるは主イエスキリストのお御心にかない、また

答 日本聖公会の律法にかなえりと思ふか  
しか思ふ

主教 なんじら聖書はイエスキリストによりてかぎりなく救いをうるに必要な

答 教えをことごとく載せたりと信ずるか。またこの聖書をもつてなんじらにゆだねられたる人々を教え、かつ聖書をもつて証明し得ざることは何も限りなき救いに必要として教えざることを決心したるか  
われかく信じ、また神の恵みによりてかくなさんと決心せり

主教 なんじら神の命じたまいしごとく、また公会が神の命によりて奉ずるごとく、常に励みて教理を教え、聖奠を行ない、キリストの戒めを説き、なん

答 じが預かる会衆にこれを守ることをねんごろに教うるか  
われ神の助けによりてかくなさん

主教 なんじら神の御言葉にそむく異なる教えを教会より払い去り、健やかなる

答 者と病める者とのわからなく、公けにも私にも、すべての信徒を戒め、また勧むることを務むるか  
われ神の助けによりてかくなさん

主教 なんじら世と肉との思い図りを捨て、祈りを励み、聖書を読み、その研究

答 の助けとなる学問をなすことを務むるか  
われ神のたすけによりてこれを努む

主教 なんじら慎みておのれと家族との行ないをキリストの道にかなわせ、力の

答 及ぶかぎりキリストの群れの良き模範となることを努むるか  
われ神の助けによりてこれをなさん

主教 なんじら力を尽くしてキリストの民、ことになんじらの預かる会衆の間の

答 平和と愛を常に保たしむることを努むるか  
われ神の助けによりてこれをなさん

主教 なんじらの上に立てられたる主教を敬い、喜びてその正しき勧告に従い、

その正しき裁決に服するか

答 われ神の助けによりてかくなさん

主教は立つて言う。「アーメン」は主教だけが言う。

願わくはこの志をなんじらに与えたまいし全能の神、これらの事を成し遂ぐる力を与え、なんじらの心にはじめたまいしみわざを全うしたまわんことを、主イエス・キリストによりて願う。アーメン

主教はまた言う。

愛する兄弟よ、いま公会にて司祭の職に召されし主のしもべらを受け、天よりの祝福を与えたまわんことを全能の神に祈るべし

### 聖霊を求むる歌

一 みたまよきだりて  
ながつくりましし  
あふれしめたまえ  
ここにめぐみを

二 ななのたまもの  
あぶらをそそぎて  
ひらきのましめよ  
いのちのいずみを

三 こころのくらきを  
てらしみちびきて  
とりのぞきたまえ  
けがれもはじをも

四 わがうちにやどり  
やすきをたもたせ  
あたをふせぎてよ  
そとべよりおそう

五 ちちみこみたまの  
みつのくらいなる  
さとらしめたまえ  
ひとりのみかみを

六 ちちみこのおくる  
みたまみちびけば  
とこしえにうたわん  
かみのみさかえを  
アーメン

主教 主なんじらとともにいますことを  
会衆 主なんじの霊とともにいますことを  
主教 なんじら心を挙げよ  
会衆 我ら心を主に挙げん  
主教 主なる神に感謝し奉るべし  
会衆 そは正当にしてなすべきことなり

主教は次の言葉を歌いまたは唱える。

至聖なる父・とこしえにいます全能の神よ、いついずこにても主に感謝し奉るは、正当にしてなすべき務めなり。主は大なるいつくしみによりて、ひとりの御子イエス・キリストを与え、我らの贖い主・限りなき命の与え主となしたまえり。御子はその死をもつてわれらの贖いを成就し、天に昇りしのち使徒・予言者・伝道者・教師・牧師を送り、その働きによりて全地にわたりて大いなる群れをあつめ、御名の誉れをあらわしたまえり。かく大いなる恵みをたれ、今また救いのため定めたまえる同じ職位にこのしもべらを召したまいしことを感謝し、主をほめたたえ、主を拝み奉る。願わくは聖霊をもつて彼らを満たし、ここにもいずこにても、主の御名を呼ぶ者、つねにこの恵みを感じ、日々信仰に進み、またこの仕えびとら及びその預かる教会、常に御名をほめ、ますます御国をひろむることを得させたまえ。父と聖霊とともに世々統べ治めたもう御子イエス・キリストによりてこいねい奉る。アーメン

ここで志願者は主教の前にひざまずき会衆は立つ。主教は両手を各志願者の頭において言う。臨座の司祭も主教とともに手をおく。「アーメン」は主教だけが言う。

父と子と聖霊の御名によりて我なんじに手をおく。なんじ神の公会にて司祭の職位につき、その務めを行うために、聖霊を受けよ。なんじ、たれの罪をゆるすともその罪ゆるされ、たれの罪を定むるともその罪定めるべし。なんじ忠実に神の言葉をわかし、聖奠を施すことを努むべし。アーメン

主教はおのおのに聖書を渡して言う。

なんじの預かる教会に神の言葉を宣べ、聖奠を行おう權威を授く

次にニケヤ信経を歌いまたは唱える。主教はつづいて聖餐式を行なう。新司祭は主教とともに聖餐をうける。  
祝福の前に次の祈りを用いる。

いつくしみ深き全能の父よ、願わくはこのしもべらに天の恵みをくだし、義の衣をもつて彼らを装い、その宣ぶる御言葉むなくならず、豊かに良き実を結ぶことを得させた

まえ。また願わくは彼ら御言葉を宣べ、あるいはこれに基づきて教うるとき、我ら救いの道としてこれを受け、言葉と行ないをもつて御栄えをあらわし、御国をきひろむることを得させたまえ。主イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

執事按手式と司祭按手式とをあわせ行なう時は、まず執事志願者を推薦し、次に司祭志願者を推薦する。嘆願は一度だけ用い、特祷は順に二つとも用いる。使徒書はエペソ書第四章七節―一三節までを朗読し、後直ちに執事志願者を試問して任職する。次にそのひとり福音書、マタイ伝第九章三六節―三八節まで、またはルカ伝第二章五節―三八節までを朗読し、終わって司祭志願者を試問して任職する。